

律令要畧

7 3

7087

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

A 22.3
R 48

73
7087

所屬 HK
部 趙佐文庫
番號 2
小番 92

律令要畧序

[illegible]

昭和十九年十月十七日
遊佐慶夫氏 贈寄

$\langle 2000 - 550 \rangle$

77 909

有とありて經の法も遠くかゝく教へよるは
又日邊紙とていふ吟味する時に各別に金と細に用ひて
情とを混れりてさうとあるは――不修の情は辭の妙上にて
各別にかかれ――と有たと――金ととて身とあるに云云
を辭と能く兼けと入る同つむるといふぞ――なりとて
有能れるものあり衆雅に問ひけ細に實入鑒をさるや
思ひけちる事と問ひ衆く播く事を用にらるゝとある
り衆後――先より取付て吟味するも強ゆるあるもの
大略此邊紙と吟味する時に邊せ――教も紙物の教をい
合ふ人かゝる極く遠なるれたと（紙物なることと邊
たるり能く――君をわたり人知りて同くぬ建をさるは
法

携問にかりたりとて氣長細吟味――又かむそりにしたて
受け取らぬおとりにさ――邊紙に用ひける人教をさる
者實教をさる時或右同紙をさ――仁者を教へる――人知
者知をめく――さるを紙とてある法をさるは――紙を
携問に實教をさる――法に――其実乃衆に流むそのある
る――邊紙に白紙をさる邊紙なる者なり紙を留くも紙
く――本問に有するといかに有る右――といふは
云ふは――人教をさるは――右に紙物に
賣るものと紙をさる紙物をさるは――吟味は――
邊紙をいふ知る――といふは――右に金と紙と
通はるは金と紙とに用ひるをさるは――右に金と紙と

一は公事出入使援用品

一因水西乃新因堤備

田相臨

村境偏

信全限壹概力入吾子合之

四相承以雙四相二色後又

女文為人適之。所引原素。豈

年紅後飽難見
田

五、恒家收上子糾、子

輕深一五
二重

一 限 賣 母 弟 男 共 四 人

一 改 亥 母 不 男 世

牛車水
の
美しきと致す

實は又と氣の

寧毅子須如

在仍所操

中藏傳

一 人相書と次男

人報國

考問所今又旧題一紙

資
國
推
我
推
便

一 煉判巧偽母 大札撰文似也 子
 一 御實所破系 人白引
 一 不處不敬
 一 百 十 歲 以 下 以 仕 五

[illegible]

公年外
課科之若

取捌大板

法提御製材を以て其の如く外國の如く之を札に有し
累々

但江天六湖

目下橋節遠橋之車町左邊橋渡系橋頭所

俸是胡名合（一）每月二日十日休在月立合月十二日
 之奉以一月寄合者十八日女依公依一箇換有
 共不借金公奉

習外列中孫主合辰列中孫內寄合色列孫外主合色列孫外

上卷中出府
下卷中出府

体定所
 高信
 役人
 外集
 信止
 位
 寅十一月初四日
 十月廿六日
 七月十一日

乙丑人外活也人若書
病者外作止能令清
而系之有
り之毛力保其世市
乙丑人親執經者
知者之好
たり元評定元ふて取

遠國より来て公事人ハ立江戸久安波牙承に商地に公事人ハ其日

一 帳面決算より但し不景一七の付を脱去し六拾別
一 長利を巨款債連系し有るを所し遠く考最の積貯金
にありて有る所

一 公算載解の後主筋し込人致新始来旨を去る波之

右の件出所省板の大意

一 国八列の所ある公算計解和版の計助定奉計初判関八列
外らる計解の計助定奉計初判

一 大衆内近に母波板磨八國の公算大板の計助定奉計初判
但し公算の計助定奉計初判

一 案八列の計助定奉計初判案八列の計助定奉計初判
有社以公算計助定奉計初判

一 族の所ある公算計助定奉計初判
計助定奉計初判

一 公算日致其最但一五の計助定奉計初判
但し遠國公算計助定奉計初判

一 地所計助定奉計初判
計助定奉計初判

一 計中監の計助定奉計初判
但し遠國公算計助定奉計初判
及此板

一 大衆の計助定奉計初判
有る日八の計助定奉計初判

一 産稼の計助定奉計初判
計助定奉計初判

右京支坂町有行取掛 五分

一 山歌大和名江母波在名京那町奉新島平所信通之

一 楊澤河為和泉按府在大坂町奉河三島年所信也

右一國一史附錄

從公事所張茂宗受所傳之系與秦仍承之

右内和家一玉一火附邊紙夏氣一更收暖奉以承之

津科所、内大坂邊城敷番より來り、吟味右八國より其
 國より既に奉行所より改定改定式を呈するに及吟味
 右科所より出入金銀者、地頭より取捌は他所より出入金銀大坂
 奉行所より取捌は

方私以一紙之出入金收者地既多取指以他風之方入八系大城

奉以頌之

一 雁し 卯化 木系 大坂 赤良 堤町 橋入 組 鳴新し 主新し

秦以所亡者爲左、以代官在廟、右、外國、御神之、公、子、

新江所盜賊等去歲一冬中吟味佳句動定常行亦相與

五竹支既く町く出入り通ず仕事け支既事仕并三門前出

所方支配之町にありしかるを重利に及ぶ方家と云

之厨之海骨之書出之十家之不和時之平相而來之

又一地外市物失与假此以有

從一此以之故其
言耳源後郭出為
不中一去

中依上三系板沙泥地政之所有之土地

石上吟

江和歌山縣志卷之六

仙童之石人
仙童之石人

再任職爲民庶也奉新所
所亦支院人爲得速一
少以之爲人奉新所
奉新所張宜爲奉新所
奉新所張宜爲奉新所
奉新所張宜爲奉新所

私心自利云云

奉新所依彼所
我乃也之
前數件有之
單濟は後
經年日本戰
争に於て
作方様收仕
度木多し相
手方に主健
援之先戰件
決定之
久し相之
伺ふ一更儀
て此題若張
文接有之
其より決然
之
使わす方
を為して
あけぬ義
以上全紙
支取人
其地
改上通
お尋ね
相も
ある

再吟味し
理分ち
力分
對受し
あふ
て
理分
乾き

又、檢使の事を只く、不明し、吾も憶成控據なし、右に案在
吟味し、致事なり

東の所を修むと先敷外相違なく同様に改む
裏に却て修むと修むと知れぬ出入り同様に改む

中者中洲曰代大城曰城代若華亭曰倒孔保定一府之
使實地備舍品其小定法有之最不及何歟

免罪途瀉亭_中返_後一_中付_者之_與在_同古_之外_及及_同

但免累遠涉重山
近致者一併
有以師
法任重
之義
伯
中
歲
時
有
月
初
入
寧
之
中
者
紀
之

惟此仕宦者乃爲秦漢中而魏文及晉人

但中手觸頭しぬる又六洲中手等しく五洲頭出ぬ
く及ふ計日新別物あるや信る也上り必し保
為人龍頭も疎我今も新親新保看し中より所保る也と
あて居臥る事ありやうと云ふ

[illegible]

破戒一通
一信年終、
迄清所、此係
一親、其
一市寺觸及

一、度有法、用中付山根中、至下、彼、案、又、信、之、指、別、何、之、
出、家、別、人、府、既、釋、多、此、人、之、執、也、本、有、之、對、之、從、之、後、信、住、是、
不、友、執、之、觸、以、支、配、以、之、又、之、後、之、信、之、通、之、不、成、之、中、海、之、

町人百姓は年仕取してより我と訴ふは家へ
知行は切矣
店上は仕取し棄てしより之を科せしは是を返さるる如し（申入）

寧ろ市井の如く
酒を病に例ふ

吾弟琳人、外病人、小石川、中野、所、也、之、

一 倒死病人水死首領自其人物多喪失、（以下略） 札入とる知所
か人、（以下略） 札入とる知所

一 遠國者、（以下略） 札入とる知所

一 然終とる所、（以下略） 札入とる知所

一 御前地、（以下略） 札入とる知所

一 今、（以下略） 札入とる知所

一 返中、（以下略） 札入とる知所

一 及、（以下略） 札入とる知所

一 指、（以下略） 札入とる知所

一 少、（以下略） 札入とる知所

一 國境、（以下略） 札入とる知所

一 檢、（以下略） 札入とる知所

一 但、（以下略） 札入とる知所

一 編、（以下略） 札入とる知所

一 然、（以下略） 札入とる知所

陰陽面にて極義は右陰面全くと云ふは陰陽の理を
 又方々陰陽にて全紙附れし有る所証を相成極と云ふ
 歟焉と云ふに偏外の所は全紙く終に之を及ぼす

一 國境部境戴件係景神老中批判之奉所運下其外並其運下
一 事仕至者個書之者右之上何月其是事揚卷之今之右之振苗
一 何々何歳之紀之何仕至付其紙之札記之其外其札記之
一 其事之原之其之紀之下之札記之其外其札記之
一 有院かり山少大戴件之其福地之本手其其載件之其為永
一 神科所之百性お所之其其代友の而何由之其道中其其運局中
一 宿拂木衣お所之其今其為材中刻金ハ不痛波
一 祿事佛事其外其依何事親親之其為止之其權其其其所

又地以相遠更指急

但之天以之佛像懷極事莫堂社佛園指別大寺如

一 市仕番筋に交に付仕爲に取立番人とし私曲欺ふ有る事目所
 所有し時に汲人ふり承^{おさ}け捨^おてし由所て仕せし汲所におりしと
 之由所て成るに^く評定承^お腰^おと^く毎月式目箱方^お有る事
 一 是尚ふふ茂^おと^く山林伐出し交易又^お酒菓^おと^く多化^お出^おし^お事
 一 官客易^おふ^おり^お付^おり^お

中よりいふとも撰ぶや

三

- 一 高相二以結込中並賣出金相抄といふ是又ふ所上
- 一 法人二同此法敷に教録出目録といふ人々撰て言賣ふ法極し
- 一 仕至る所中中付外法人ふり法義市中付法定也
- 一 百姓といふは和法親教に心悟法を云ふ也其後立系引込親
- 一 先より合方杯更買力指義に傳止
- 一 浦方小方極事指別とて立系相し外法賣傳止
- 一 新規といふはふ未佛像建立傳止といふてし相佛樓
- 一 僧多法傳買ふ及之に極事なり似合ふ風俗とてまる
- 一 家業といふは義重法法とて
- 一 惣ふ親履親来や鰯年傳止

- 一 進利桂子名石其外抄ひるりし親續進とて傳止
- 一 所添に進利と然る間小利とて賣出賣傳止
- 一 改利に付ふとて相抄し内添所抄とて賣出賣傳止
- 一 志きり
- 一 川和波所抄とて十道法所抄とて賣出賣傳止
- 一 佛事とて欠所とて法金とて賣出賣傳止
- 一 にく相海とて賣出賣傳止
- 一 名所者 所典にく相海とて賣出賣傳止
- 一 者中法とて賣出賣
- 一 二年とて名所とて賣出賣傳止
- 一 得て名所とて賣出賣

向後何如及江戶之仕女唯自分仕女耳。吾等其
但彼新入江戶之同輩。中老中述亡其相何如。吾等其
科。以內。諸君。八。永。實。或。親。親。饒。青。木。多。愛。於。亡。吾。等。其。

七月

在河陽書に記して心の方を 信濃之

る 赤河者 実知者

一 赤河を言持但云ふ其より古仕に後し者より持同
松之平

在河陽陽力云々同松之事

浪路牧

右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
此右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事

但町方より金安を言田知より金安を言

一 右河陽陽力云々同松之事
味より持よりより金安を言田知より金安を言

一 右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事

一 右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事

一 右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事

一 右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事
右河陽陽力云々同松之事

一 用香猪食法與細合材熟子刻合皮面例

一 用水方量、田反、歩、町、丁、石、斗、升、合、勺、撮、

一 取し時乃大鉦曲を以て於他處方に新鉦を以て爲す例に
相違田之水隈不相のくハ林等々

相求田之水 廣不相向之勢也

一、用水は、櫻餅屋、涌井、安子村田地より、多し。地内ありき。

るに田子、魚、新親とも用ひりし

[illegible]

但先浪高しと云ふ能成す其由し其成すは其幕し日水
おれづる不足と成れ先浪免し豫列に事し外を禁ふ

おれづゝふ^と成^り札限^り免^し豫^め列^し事^を外^へを^も替^へふ

一 地重子重水仕、疎、繁、密、之、相、石、

一、
此道橋書法組合新穎，中甘冽。

一、神科私組合事務私以「方計」由事務私、相方之、免之例有
新親族、中、米、猪、牛、他、世、川、津、一、休、家、年、奉、持、之、

新祝葉加味種自他世川中（佐方）年耕ふ

一 地より入城 公に鉅策し 諸君等 亡國を返す 志を有る 新親 故林より

成林

一
水仍一環成地而水漲不盡氣新矣一氣因之拂之而化焉

波馬河岸市

一
鳥鳴山更幽

一川岸地勢動更所河界長流有方

但川唇懷不救乃
地凡其村日之痛
外八宜其村也

市場村造り
今、此市場
近新可居
有跡志林

一 中興く市新市く多市坊於陳其之云張七招別

一 江戸之傳馬町より鞍馬川沿ひ江戸へ向ふ路に寶祿傳馬止

一馬鏖_く場所_（相對_）る_）能人馬_（助合_）其_（俄_）外_（と_）助合_）と

一、爲體、堪所、爲合、人爲、臨、爲、和、人爲、體、年、林、爲、
但爲體、
木村、格、別

一 此還し外懐不し知乃く禽し皆し傳し止し且し振し入し精し也し之し強し乃く

王德信

一 法名實人、平馬、而附通、年根性、還、上海、乃、大、其、權

但黃渡以法爲病黃人化子村而馬健也謝色翠林也

恨及し方御朱印人馬し列座食を食し方弟友をめ

一 世に
是に
病に
事に
美に
味に
相に
和に
之に
科

一、
場、
涉、
寒、
通、
中、
筋、
子、
孔、
有、
、
玄、
哈、
、

八
田
大

一
御朱印。境内牧草所産田稻等、家畜米之屑有甚多。

紀年真、何例、誠在、子、子、結、如、實、又、誠、不、一、此、水、爲

他は是れ國に在るものなり。他國に在るものなり。之を以て

一
居村し村系地先亦他村等強の地有るし其田地先なる大倉

唐村ノ歌乃地成ニ通例ノ地先トハ依違ナリ地先ニシテナリナリ

地外傳
續集

先施以除地當附地未當地凡一處入石例

及至仙羽方大為地使據之。其地後取上村史。

石之

一、
本溪鐵礦地方之各段之主要成分

但木、乃其終、木、陰之本、曰陰、曰天、
于、上、也、天、也、上、也、乃、其、終、也、

竿法 田和地類は色あはる科

一 此竹之材至如竹之堅固

但年貢より徴せし地相對於檢別

永代地 徴せし地は永代地と爲るに偶々あるに過ぎず

但二十年來新地も永代地と爲る年貢係り又檢別し

て之を以て永代地と爲るに過ぎず

と 少野 海川 入合

少野入合村より西多しと并合入合し地檢難用 但あり

地えたるより入合地は西多しと并合入合し地檢難用

但地えたるより入合地は西多しと并合入合し地檢難用

入合地は新地と爲るに過ぎず 別合

新地も永代地と爲るに過ぎず 別合

入合地は新地と爲るに過ぎず 別合

貴地え村より徴せし地は永代地と爲るに過ぎず

入合地は新地と爲るに過ぎず 別合

地えたるより入合地は西多しと并合入合し地檢難用

但地えたるより入合地は西多しと并合入合し地檢難用

内山境より西多しと并合入合し地檢難用

但内山境より西多しと并合入合し地檢難用

他に入合地は新地と爲るに過ぎず 別合

相違の検地は相違の根拠より内外より専断に之を檢し

と検別

石田同意し少野土地より徴せし地は永代地と爲るに過ぎず

更に入合地は國境より徴せし地は永代地と爲るに過ぎず

入海、支那に於ては、
村並に焼場、村境と沖とを
通じ、焼場と境とを
隔ち、地対根明、沖と入合

陳第之說誠非之真概論之云云別地先漢書前之

但汝淺之新叙之漢牂原系之於諸葛兮

溪坑場
新墾成
蘇市到
取後村
分

入海冥鴻深蒂大て支那の中央限へ

海墘、海城、五城、之例、免、本年、之、漢、去、征、城、墘、等、

海石玉浦收永於烟々、作村の轡馬たうた金に付多

小瓶、玉瓶、他例冲瓶、新瓶、七真、八例、

實上弘い政教より沖へ九里程し高き限り改め

蘇東坡歸德院
功如松柏之茂

但求計之
錫約以事免之

駿嶺、海中古亭、内除し

川通菱船式、宜上於納、他村亦唐村亦、是別船、候

但云收之村八村不限个

村吳書法更以氣之安帳而六品之能擢用

神木なり凡今之場所
云所理あり伐採之於神
之害甚

ち
村境

川志附考漢唐流經中興境考

但大抵市自然川漲遠より外に新田地又ハ又々増小物作物
秣場仍原村原地木し之より地木し之より地所に附る(漢文)

一 貴族律文 其法乃貞元律文より金を信りし

右より京保十口國年以て滞りて十日限海方可なり

但限し度より少く或は滞りて或は切金より或は或る

法方と雖も、多給限りなり

一 為勢金十日限 海方可なり

但右法方中身以上滞りて二月以上限日米なり

上より滞りて多給限りなり

一 為勢金十日限 海方可なり

一 運判律文より法信有法より判金信なり是より右より

法方より判信より事なり之より上

但信文信よりなり判信より事なり相決りて事なり白より上

一 日高海に依りて信金より判金よりなり宛め金より米為内より信金より

判金より裁よりなり所より判金より判金よりなり

一 信地より信法信金判金より判金よりなり判金より

信金より教

一 金限信方より表より辨金なり其法方よりなり不為りて事なり判

判金より相違りてなり信方より者より判金より判金より判金より

判金より同より判金より判金より判金より

一 信金より白紙より判金より信地信金より判金より判金より判金より

判金より判金より判金より判金より

但金より信金より判金より判金より判金より判金より判金より

一 永信金信地より信法信金宛不違り所なり判金より判金より

他種文據より中々其後後引き入る上中より取らる

借令賣越令段

一 京保十口因年取前借令段に賣上相對決りたる

一 借令段文に取令段借上段に引き入る

一 借令段に借文及び取引の記しを又支取の事分給

之者、右の借文に引き入る令段と借上者取引

右の借令段に取引の事取引

一 白紙の形に借令段に取引の取引する事

一 借令段より取引の事取引の事取引の事取引

他種文に取引の事取引の事取引の事取引

一 右の取引の事取引の事取引の事取引

右の取引の事取引の事取引の事取引

一 他種文に取引の事取引の事取引の事取引

一 右の取引の事取引の事取引の事取引

右の取引の事取引の事取引の事取引

一 利令に取引の事取引の事取引の事取引

一 他種文に取引の事取引の事取引の事取引

一 右の取引の事取引の事取引の事取引

一 右の取引の事取引の事取引の事取引

一 他種文に取引の事取引の事取引の事取引

一 右の取引の事取引の事取引の事取引

但早責相對 亦更涉方中付い為徳文、亦と子及加判、
亦と信令、亦付る店、去とふ親、是

信人死其為不悽又、縁相續、亦と海方中付可海者、是付、
加判人、中付

帳面、元是信令附、上帳、責有、亦中親、亦、亦と上

信人、亦親、亦方海、亦方加判、亦、亦と上

亦、亦と上、亦附、上帳、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

亦附、上帳、二日、大勝、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

亦、亦と上、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

接音、亦、帳、亦付、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

亦人、亦中親、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

但、亦人、亦中親、亦、亦と上

信人、亦中親、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

信人、亦中親、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

信人、亦中親、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

信人、亦中親、亦、亦と上

但、信人、亦中親、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

但、信人、亦中親、亦、亦と上

但、信人、亦中親、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

但、信人、亦中親、亦、亦と上、亦人、亦、亦と上、亦中親、亦、亦と上

但、信人、亦中親、亦、亦と上

一 為給金とて相對信金未、遠い名を渡方の中

但五例に信金と為給證文、改訂し、各信金准り生

一 破り多し、金相對給金、之、右名を渡方中、他、南村信金准

一 府、以、信金、相、信金、出、信金、准

一 堂社、教、法、堂、信金、入、信金、入、相、對、信金

但集、少、多、少、相、對、信金、入、信金、入、相、對、信金

一 式、本、方、信金、日、地、信金、日、地、信金、日、地

但、一、對、信金、日、地、信金、日、地、信金、日、地

一 昔、子、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 亦、給、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 先、信、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 又、建、人、信金、未、文

一 先、信、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 信、人、信金、未、文

一 先、信、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 亦、給、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 信、人、信金、未、文

一 先、信、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 亦、給、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 信、人、信金、未、文

一 先、信、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

一 亦、給、信金、未、文、信金、未、文、信金、未、文

只指五七十月也 七十八月切百五百日切

子亥望上十二月切 日一利是茂源方中付

家修之石之文切利之 家修之相之

家修之活家修之文家修之石切修之方之 家修之方之 家修之方之

家修之方之 家修之方之 家修之方之 家修之方之

家修之方之 家修之方之 家修之方之 家修之方之

家修之方之 家修之方之 家修之方之 家修之方之

家修之方之 家修之方之 家修之方之 家修之方之

家修之方之 家修之方之 家修之方之 家修之方之

家修之方之 家修之方之 家修之方之 家修之方之

田畑 雙田畑小化淨取捌二重修二重書二重書

田畑山林水代賣買

田畑 二儀 取上中死人時 田畑山林水代賣買

田畑 二儀 取上中死人時 田畑山林水代賣買

田畑山林水代賣買

田畑山林水代賣買

田畑山林水代賣買

田畑山林水代賣買

田畑山林水代賣買

田畑山林水代賣買

一 年教誨の爲、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより
在りて、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

或は、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

一 十年來、此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

此の爲に、今より日本、汝の教を奉ずるは他地よりより

小北張文を以て張文と小作の義に如くしていふは他皇朝今も小北張文と申す
事なり小北張法杖といふは張文といつた為人張人九海京中村滞りて
五人九月所限りて申す

雙地ノ幸貞斗令々々長不徳及此之勸以張文定居之五使
文仕盡させ月乃英加判し學之科

從年未明之地而為流地年未明之地而為流地

便不地句
相與決又

二十年以上者面小兒亦不計

雙地英小作清江月

金東月夜望上之十日

同
夏
上
下
日
切

同樹石上之石上之石
百日切

同
難
必
百
萬
一
者
不
日
切

同百五頁以上十月坊

同啓者自堅十月廿日

新田相傳地
其地所司令備
七年將止之
乃矣如利人

晉小北決大帳而官祇敢有此地而念升堂上

價地幸來一因幸與德波刃方相對極品陸文

但年貢法改分、子息と有納あり、中々大に増上

人愛牙右張文面戴

位石新水漲
相連の雙水張文の雙水
之項信念唯載

蟹地亦化田個地之理而平列取或地角_ハ新波_ハ古_ハ地_ハ古_ハ新_ハ

但所云他物為返し者、誤り、乃存ふ是神なるを辨し

一 實地入部九年、貢米進給ありし、惣て其地取上り、當拂込令
と云ふを皆漸次令とす、此を令とす

一 而時、此文より及ぶ、新に主事、依り地取上り

一 及ぶ、貢米、於書、六、日、頭

一 田相二重、實入於政、惣て、中、致、進、給、田、相、取、上、り、進、致

加判人新押

但田相取上り、初に令とす、相、致、後、令とす、此、致、取、上、り、之、後

を、加判人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 田相取上り、後、家、米、二重、於、書、入、上、令、進、致、後、人、を、科

但、書、入、米、初、の、令、と、す、相、致、後、令とす、此、致、取、上、り、相、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致、後、令とす、書、入

但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致、後、令とす、書、入

但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

一 但、所、人、別、合、體、令、未、取、上、り、中、進、致

欠薪者病ありし店主人取寄て少増成志の店賃に之を以て科
但尚病店賃に於て取寄に之科

事之人の債に之を以て入家之引債之殆相済ありて後店主
門籍出で以後尚人取寄し但所見有て又家之右之引金相
廻りありし尚人少納に改て付

但尚家之引金市外且店賃滞り有と店主に
返り有る引金之引金と改て引金相付に改て付

店賃人債に引金未納の債人之引金免時俸に引金付一代功に
相付に直に債に之を以て入家之引金に改て付

改納債に引金直に債に之を以て入家之引金に改て付
久難に債に引金久難に之を以て入家之引金に改て付

但引取人無しの引金に改て付
か 欠薪者無しの引金に改て付

但先有し引金未納に之を以て入家之引金に改て付
指し取に引金に改て付

但金子指し取に引金に改て付
債に指し取に引金に改て付

但引金無しの引金に改て付
但引金無しの引金に改て付

一 身之人物を法人と爲す相済は以後下法人に爲すは二十日限
深き中付事

一 欠薪者も法人と爲す南島に於て是より之を相済令難用
高島二十日限 中付他欠薪者も引込を相済して
正當町方より欠薪一通と爲す新正相済人相済を
次中付事人更なる相済と爲す

一 欠薪者いふ事 旨は他所より之を相済
有川より欠薪と爲す

一 今迄の外より欠薪の親類も同國好むと十人迄は相済
但し是れは二十日限 可中付事

一 身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済
身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済

一 身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済
身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済

一 身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済
身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済

一 身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済
身より欠薪者も南島に於て相済南島に於て相済

依之日限。而為新歌者。乃有八下。為三科。一、
神聖之教。二、
收其者。不及三科。亦須。

男神限り高知金中より分限人男上金上より分限人相尋り
 衆中貸他十日地し限人金中分限人相尋り又十日限り
 中分二金月し地より分限人分限人相尋り又十日限り
 分限人男上金上より分限人男上金上より分限人相尋り

取込引負本ノ欠額者五人ノ中ハ斗以て取込今十日限リ深方
 中見欠額者ハ二十日限リ之為新支取爲人外ハ極小と爲
 順支中分見

欠所悉りぬしと近所賣拂ひて買ひしう福慶金あねを正換ひ
得たりといふ者なりと云ふ人此仕る可なり

法
 人
 法
 令
 斗
 漸
 方
 中
 其
 法
 人
 十
 下
 法
 人
 二
 日
 切
 中
 凡

一 欠薪者及之七度而爲書 法人爲之科 乃御臨之 式之相魚
云 後上取上 但所書之人 則合於多 乃之法人 乃仕員

近頃引負く多し又人意を極むる多し又味又金
 在り故人改欠る先欠る以て家より新しきものを買ふ
 法人有海令に科九の家令中月の家令又病を店法人
 形方先云多し彼人より法人に新しきものを買ふ
 在り故人改欠る先欠る以て家より新しきものを買ふ
 又門前佛のりて改後為人を買ふし彼所又存え家
 在り故人改欠る先欠る以て家より新しきものを買ふ

一
法久病後之人
有之也
云云

位育之人之居一通
 至之人之居一通
 至之人之居一通

引自人更人新書為後人分限卷五

但引看以字一而人再陸人言合修文乃一為之是

文蔚堂藏書

二
名引負く文彦多入是合に女正見於此より近所

條乃て返中月

彼在公府之富貴者

一、唐詩之
二、宋詩之
三、元詩之
四、明詩之
五、清詩之
六、近代詩之
七、現代詩之
八、未來詩之

一
引南人言西人以爲
商人入軍中作爲親
親又云矣

[illegible]

他方上座より收まて形ある人々新陽て系本不待は
 爲る後年令りけ

引負へられ外に流るる者なく南へ海へ入る

今幸得此書讀之使先王聖教之風以之永流

但求老主人後復健忘之在在免泉之

二 福武子 綏綏 後象

一 求學處 然我漢族の町に 白陽一教の民 子連 師 名 家 喜 各
いし 是 不 念 け 仕 方 多 度 更 止 不 己 儀 歟

此式之義乃金之狀也。其文組紐刻乃之。乃之在送扶也。

手病一判_一交_一狀又書_一六_一穀_一名_一因_一血_一第_一系_一之_一方_一係_一中_一付_一
 師者_一改_一養_一娘_一拉_一女_一母_一之_一出_一一_一實_一方_一一_一那_一方_一以_一升_一出_一而_一以_一爲_一決_一父_一
 乃_一無_一之_一無_一久_一別_一無_一名_一上_一

但得招別及於我之身也其文復方

又波書子竹或於極自畫、隨為實子竹或也為優、

又欲武於石極量。白筋_{（白）}去_{（去）}可存續。

臨武在嶺南地處五山一水之衝

此造狀惟如
木家皆一牌
可為相續

[illegible]

為人相果逆狀無之或親親亦不始一終及有全終或終

聲子ふ縁たりといふ縁絶く從文書離別く快く不立弱

利月化形付上持余金及右衣類、乃方不増し持余金云々

孟子曰性善也中乎生者也性之隨使也實方入均和也

持系令相持指別不反載乃

莫子生後不和子雖波家又子鳴付為引

家世優長而一之氣弘才茂之離緣一之忠義中一之九難

聲中女子書文と和と実方城と離別と秋と夢と妻と別と

父之臨及入之謂子及或

解送於家書解之氣之次解實方為上六持家金及或

離別之秋也上解之使乃之未為近

養子汝家方未及死後立收收式未清一秋之離之

解子汝子離係一上出也一男子解之方引取引為未

相與可近

更之極量收式之更死後家之何之秋後方之第之

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

離係第之

將收家之收式之更死後家之何之秋後方之第之

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更之極量收式之更死後家之何之秋後方之第之

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

更死後後家之未也為要之之秋之離後家之何可近

世居親友之故年已更所出之相如之狀能之
但離別之憂憂戚戚而始之此一處更之方以是離別
可相安之離別之狀安之方更之方之已年終
而後更之方之始之方更之方之終之方

一 卯之世に後妻に及りて於て離縁ハ在らず妻は以て之を合ふ旨に
 一 曰ふに憐れみ甚きを以て離縁し於て腰押ハ追放
 一 先く支離別し申す慥に在り離別し於て腰押ハ追放
 一 存致し其の中合理不申し外に於て引合ハ重き科式ハ追放
 一 在り親父も存致し其先夫より方之退離別し於て腰押ハ追放
 一 存致し其方之退離別し於て腰押ハ追放
 一 存致し其方之退離別し於て腰押ハ追放

文と嬌正装と動はるも服豊度中々式は文は
比五厄に成縁絶

其世孫乙汝永北丘危奇（孫）北丘危奇之季節之昭也

離別上又上酒上不上乃上載上

屋敷家譲氏文汁波取柄活券と云波取柄取乃及云云地
白たり元金爲云云譲氏文と活券引張り上云云
地云云波し

位及更活春休文歌冬ハ家屋敷ニ依ル上ニ
 未子難係上同町ニ分歌後同家屋敷ハ未文ニ對シテ遠ニ
 町内ニ為テ良

張清山所居愛山月
大寺社後作
龍圖

大寺後山

涉定之

彼在遠近方為己多可說相去之能五之也入以爲
棄取之上家古佚文紛然其相別而相合
者雖止於此例之凡化他家書中亦以類
雜中其且指別入細以雜之而不拘一上載所
擅方通方由法乃有說作微變六篇至最詳之宋洪

離此等境よりあふく懐く而歌波離具仕方不増く
中食の區中食有村少くも中食歌波離具不増く
中食の區中食

奇說涉中法之國之形名之中法一流之法或拘
湯代良地之法式有格拘年之及六有格法中
以之地以之有格格謂之

先欣之溢情、述云有之氣法或之義、且方之若、終福
新地新仍叙之寺院、且附以平信也

從右有之。已院之。及改之。及於。無隙。八。及之。引。及。及。

但同其好捨別乃在云怪染丹也



吾國家之強壯於今、神皇之ふた

但此より社設計免し惣出家山林にありて
木石を造るは所出の社より頭金に在り
後世社人より社より造るは所出に

彈狀改爲新叙し書寫停止し

女子茂天ノ宗者如_レ義通例_レ有_レ

但母、他、家、を、縁、附、文、と、
たう

帝付新詔
醉之ひふ
夜半

新欽之乎此乃波岩附八地面云俄人等上之似手前之七名照以之

皇朝中興波一村
皇朝終波離上村
波入多方又八百科

平昔性ハ叱咤
攻守ハ付離
是ハ今終
文ハ飛
坤ヲ取
以者
所佛

夢高枕所
 市功家
 古往今來
 波平飛
 山景鏡
 夕夕

上府寺之授移茂不為布利賢為清之有院至塞

離上上石塔之引取は所幸致旅中か海は安沙也

但又遠之又近之其一代終度改宗者甚多

仕職出入隨心
家言謹之
中祇下情更謂
無之
李璠
平飛

其平飛下者為但此乃上類亦有平飛滯止者遲遲

卷之四 守法上信印 觸物有觸 觸者不取 以守之 門

中於相觸收養取致

家道殷重中懷即多拂逆况如吾家亦不及取上

但在中流上白洲下終更不形木高判取場上
又上又白洲下曲梯止外追致

同利衣追致重中將要裝衣取上但右同

同追致外年波入院い交々集

但白洲下中友追手鏡支又年局

但育之無障除之但持手仕事又九後更取有之
世障除之

通陽物目遠いあ家之女子やれを通陽中付

れ 遠き

門之より引寄可あき

不計用更又ハ病氣之病ハ不目之無親親縁を斷斷断来い

大子之病所より脱却之之追其及支配方追中達之

追塞

門之より重々之門よりくささく不目之相道格てさ

大更之刻を更りより脱却之之追其及支配方追中達

目大より方より重々之大よりあきいつ大更ふ番

因門

門之より重々之門よりくささく

窓之掛り戸よりくささく掛り戸よりくささく

但之より外より板を打いて之をい窓より外より

木付用之ハ板中云そにてお達

大更之病を更りより脱却之之追其及支配方追中達

目大ふ及中色所より半刻して屋敷より大消に参る者
百姓町人等皆老く可憐の外立方、之を以下に老々多し
老く戸と云ふ物遠く打ふ時利直に衰ひより相違

3 田畑 家成取上 乙科

田村敬上ハ古科皇ハ田村家ハ家ハ敬上ハ

右圖乃懷素曰相斗取去家然不取上

從全發汁而得之者。其色白。科且田烟灰上之者。

貨金ハ
公儀
取上

力有限
多古志
展電
新室
我
た
取
上
し

但此茂家花よりいふに物々上家花に云々

三科中付は三科一
種を以て少種一
種を以て多種三科
七種あり

但正科數方佈之至令惟々要ふは須日殺科之惟々之
依之長短有

子科中
 後ふ
 人病
 免
 憐
 茂
 無
 味
 家
 之
 人
 但
 促
 惟
 皇
 之
 旨
 之
 用
 伯
 之

追叙江楊新撫闕所

皇_上道啟
同列
密堪澤和泉大和肥前駿河甲斐

東海乃第一等

中道致民氣山城據洋和象之和昭示東海乃為中道所
循日光乃中中費強河彼為人作居之於國中而子什為之
何方而衣一國權

將_キ遊教江戶十里馬場大坂本海兵衛日光道中

此係居之國之離他國之處の仕方にて一國權を
他者に与ふに據

一 江追敷十里四方位日本橋より四里(里)に據

一 江橋より千位支國橋板橋の谷事と云ふ所に據

一 新橋居所に在るに其居村は隣村隣所を居るに據

一 伴定所より追敷に去り小人目付町田を之合方江橋より外

位に眼を懐中し難物と云ふに據

一 追敷に去る重病氣の時去生し内家入借式に沿ひて收氣

と上追敷

一 皇追敷江橋より八里位持より家屋を設けたりと云ふ所

一 江新町より田畑家屋を設けたりと云ふ所

一 改易中將より追敷江橋より八里位持より家屋を設けたりと云ふ所

一 在る所より田畑家屋を設けたりと云ふ所

一 私に百位 公位より仕置に成り田畑家屋を設けたりと云ふ所

一 七里より中江

位年貢納りしに上より下へ仕置し

味と云ふに據 八里位合し内より仕置し

一 江令より上江に地を設けたりと云ふ所

一 江追敷木如きと云ふ所

一 江仕置より支国より仕置に成り

一 江仕置より支国より仕置に成り

一 云位より仕置に成り

但彼金波の志と即ち前の中にお仕置又ハ病後欠
前が志と右信の志と仕置

收
恒
累
差
男

一 車鼻と云ふは一為怪科と云ふは腕入墨市付年
一 立方名を以下と云ふは方ふ中付怪科と云ふは科名を
但此は波取取上

[illegible]

位科ノ位等ニ至リテ

一
金武致賀志門前成以天致上六牛以致也

可受取去病亦引渡

追拂新拂と唱

同義
恒

在清去濁之至要者乎故曰於此得免眾法之害清乃

友

吾友之強解戴解破目安裏判
龍混之新加坡百世

[illegible]

古詩所 然 吟味 上 龍 水 形 勢 遠 然 為 疎 唐 叔 上 那 么

親子兄弟之節
親親
而後
科
出
免
之
親
且
重
其
科
也

乙亥年八月初三日亥時子及沙

考科交吏と上仕置中身は前を佛科と云法中養
 以教之と云仕置と一考重遠源は免罪追致と云治と云
 免重は免お入ふ深因を偏不之と云是處中治以衆相育
 以是と科式八所拂

爲
 其
 低
 中
 信
 不
 系
 之
 六
 子
 須
 看
 子
 子
 科

龍立後及強強者已斜方因門田相敬上折拂

突實地多吟味
以波盡作又戴
作不曉及強作
以意

追致至治己科序所拂

庚戌夏地以生標

強研 中合 新之 退之 科之 退教 臺源 中見

漢書地理志又云：「漢中谷材，布及強勁，不之遺他。」
以相繼及強勁之名，取小徽之式，凡最宜為。

下状と以て、
おのれを
たすけ給ふ
所と爲し
去るに
及ばず

目安裏判似字之他書大集五卷之田畑家藏卷上祈佛

載評語注一子須臾舍彼納此上終波衍依教

載此而往志近致在臨所

矢戴碑石得遠
天叱

失戴彈弓法
以石板子
五斤乃足
名之曰彈弓

此後應以克己打掃以去己不天淵不遠以克己打掃

老田新屋上列
尖友地分各段
系家集世昭下
者打部心子表神

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

上取之者波長系為波長所包圍之新引道と概し
龍之波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

龍之波長波長所包圍之新引道と概し
龍之波長波長所離るる百廿四取之波長係は波長村中
取之波長

陳黃世持者一欠但家成才否否上

卷之三

隱憂女之佳人全家我之乃一心上

一方於極貧中求之甚死

月夜松風 日中橋 之白をじ 北へ下

位位有為
場之即
刻禁之
場之校
之省以
之

市野抄田場よりとて張込みの百科

符名を不改定念し其ハ叱

野上 念一 野上 相上 依代 野上 系

有教之人
吾先出麻衣
漫不收

一 同附之智進之山々々々武為之志を村し老を引

一 限溪施和精之老同打少之知千里四方より山岳場を重

一 右之山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

一 同附之智進之山々々々武為之志を村し老を引

一 限溪施和精之老同打少之知千里四方より山岳場を重

一 右之山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

一 限溪施和精之村方他所より系打村方より山岳八列半進

一 山岳八列半進致同列之山岳新

右町内と名を呼ぶ

右町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 惣領者たる人物は、家系を承継し、其の家系を

承継する者

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

一 立町内と名を呼ぶ

大久保元中十日申

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

の要通

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

同大元中地蔵堂法券金十分一三科

一人之妻改改其色即合一後又於那方一人此人也
下世永新有原(長子)

夫之妻亦如之其持其妻之妻一後男不持其古例也
死罪男(逆殺)

妻之極妻他(者)改其色男其妻一人於改
切害(古例逆殺)

押改其色合(出家)死罪女(持其妻)改其色(利)
一人之妻(其妻)女(其妻)改其色(利)

右其死罪

妻之妻(合)合(其妻)改其色(利)
其妻(其妻)合(其妻)改其色(利)

一人之妻(合)合(其妻)改其色(利)

改其色(其妻)改其色(利)

其妻(其妻)改其色(利)

改其色(其妻)改其色(利)

改其色(其妻)改其色(利)

一人之妻(其妻)改其色(利)

離別(其妻)改其色(利)

但改其色(利)

離別(其妻)改其色(利)

一人之妻(其妻)改其色(利)

一人之妻(其妻)改其色(利)

其子男之異通人江渡

其母若娘様之改定也者男女大に敬

姉妹伯母様之改定也者男女大に敬

離別之状も後書に記す所様は利敬に命じらるる

家裁より上江戸拂

任依極様之改定也者男女大に敬

木娘様之改定也者男女大に敬

御城内より上様へ上江戸拂

同改定極様之改定也者男女大に敬

少くも之を改定せしめ給へ

此の如く改定せしめ給へ

酒類多し酒類之改定也者男女大に敬

依藤氏代官分海分は之を改定

惣凡之類は改定極様之改定也者男女大に敬

一中小姓神浪改定一依上様令之改定

限改定依藤氏代官分海分は之を改定

者之類は之を改定

酒類多し酒類之改定也者男女大に敬

依藤氏代官分海分は之を改定

酒類多し酒類之改定也者男女大に敬

酒類多し酒類之改定也者男女大に敬

酒類多し酒類之改定也者男女大に敬

右酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か
くしむるに久しうとて大に人々を長か

一 波酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 波酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

此の酒は久しうとて大に人々を長か

此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

又六款に引換はる

此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 酒に者人 此の酒は久しうとて大に人々を長か

一 可成改定者中者相親親一上教先
一 之流流より文と親一親一法と部は者一改改定中
一 之を之流

但初は若人といふ家一改相親ありて改改定中
大新部中非妻より改改定中終中一之指

一 同部法と法と一初は者一改改定中終中一之指
一 同部法と法と同部は者一改改定中終中一之指
一 中一田相親一初は

一 同部は者一村名と名をいふ者但改改定中一

一 改改定部は可成改定中終中一之指
一 改改定部は田相親一初は

一 同部は者一村名と名をいふ者但改改定中一
一 改改定部は田相親一初は

一 同部法と法と一初は者一改改定中終中一之指

一 改改定部は可成改定中終中一之指
一 改改定部は田相親一初は

一 同部法と法と一初は者一改改定中終中一之指
一 改改定部は田相親一初は

一 改改定部は可成改定中終中一之指
一 改改定部は田相親一初は

一 小須川の土を定めて日殺一信と申す

但波久原の土と鬼相商する一斗を申す

一 田中とあるは科但小須川の土を定めて日殺一信と申す

一 小須川の土を定めて日殺一信と申す

重なる科

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

け 控書

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

町人買力希いといふ

控へてある土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

ふ 奉り所と様

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 車輪の土を定めて日殺一信と申す

一 之令位号久矣沛の令軍令位を所任に教免
傳付るに付しるも令入に指の所任あるを

二 一書性重一書重し部と有

一 不傳ふ傳ふに教免とあるをいふは遠流と不傳
去に免罪余に在る

一 遠流の令軍令位をいふは遠流の一書重し部と有
故に遠流に免罪

一 令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流
免罪とあるをいふは遠流の令軍令位をいふは遠流
軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 從取の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 中遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流
一書とある

一 科をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

一 中遠流

一 中遠流の令軍令位をいふは遠流の令軍令位をいふは遠流

同古要判 和方不徒 爲中出 爲人 公重 夫

[illegible]

手車、付仍中、
手車、付仍中、
手車、付仍中、

出家の女親は、あつては、中比叡
と云ふ、中比叡と云ふ、中比叡

此亦不私合不偶哉推之而思之蓋欲取上
中帳亦不字也書弱健強之有信也者即此或之信

今教ひ方波中をいふ一面
中をいふ一面をいふ一面

從海之南
至海之北
死界

乙 科人 今 所 為

[illegible]

暁
比
偏
人
上
教
波
名
所
以
急
亡
月
の
君
し
我
や
付
し

從親執入庫新樂一及法清

尋く我久しき家也。親あり兄あり。伯父と甥と。師と道と。あり。尋くて中より。

尋々白頭爲之出言乃以事爲多
于科詔無一金收一石親王臨以急天

欠所へも、人へ出さず、
 此處へも、仕立、
 新法、
 監部、
 為所、

科人爲立遺教大附又爲遺教上人教去
波陀堂人之家押込或長引了教

右之數科人因執事之令而爲天子之計者其始也雖或爲之退而免罪

一 喧嘩口端商賣して養ふ人と教ふ人

右斜入一内熟之
三
尖
醒
心
注
救
任
新
上
隔
或
為
立
直

いふを急ぐ

一
結句人々之欠所去と開き去る者に科

一
惠書奉之乃知波名漁牧臺鼎既分以公名免恥

下世と書く。而して後人別恨不言改む。世と不世の意。
人別恨とも。亦か他と志と。是れを以て。商人。又。是れを以て。新。佛。

卷之三 各科組別

あ

一
公侯封
皇謀斗

白教
親教
實所破

人相與志同又公仕亦不所者歟

之理而吾廉公怪我_多人教_亦化_也有_余病_多死

百姓曰人曰傷と相と理ふは然る事三事あるを教
府の形に就ては所し各々事未だ右に教の意平
不法なる中一方に身より出たり教の意に於て
人なりと教

但此土に在る人々も教をいふは是

を去るより包む師も今者此の國家に在るは法に
多教の意をふたりと

此後只端南をいふ人教の意に下り人

但下り人々も教の意に下り人教の意に下り人

弟にせはを教の意に下り人教の意に下り人

相と理ふは然る事三事あるを教府の形に就ては所し各々事未だ右に教の意平不法なる中一方に身より出たり教の意に於て人なりと教

相と理ふは然る事三事あるを教府の形に就ては所し各々事未だ右に教の意平不法なる中一方に身より出たり教の意に於て人なりと教

足る人利見智を教の意に下り人教の意に下り人

此後只端南をいふ人教の意に下り人教の意に下り人

但下り人々も教の意に下り人教の意に下り人

弟にせはを教の意に下り人教の意に下り人

相と理ふは然る事三事あるを教府の形に就ては所し各々事未だ右に教の意平不法なる中一方に身より出たり教の意に於て人なりと教

可なりと教

但此土に在る人々も教をいふは是

を去るより包む師も今者此の國家に在るは法に

多教の意をふたりと

此後只端南をいふ人教の意に下り人教の意に下り人

但下り人々も教の意に下り人教の意に下り人

弟にせはを教の意に下り人教の意に下り人

相と理ふは然る事三事あるを教府の形に就ては所し各々事未だ右に教の意平不法なる中一方に身より出たり教の意に於て人なりと教

足る人利見智を教の意に下り人教の意に下り人

此後只端南をいふ人教の意に下り人教の意に下り人

一 家に侍る者有り難き事なりと云

一 遠くより来たる人へお茶を淹れしと云

一 寺に参りてお茶を淹れしと云

一 主人が茶を淹れしと云

一 洗杯ししと云

一 此の茶

一 茶を淹れしと云

一 此の茶

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 及て

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 茶を淹れしと云

一 恒教多風之痛付て恒教おも死りて今保之上に保ま

主保系恒教人し親教持念お守中道教

但今保し上ふ念し我持念し一守守守守守

一 人数系所お守守守守

右系教人し教りて守守

右系保ふ保ししと相保ししと守守守守

一 人数し我内保し守守守守守守守守

守守守守守守守守守

右系内保し守守守守守守

一 恒教守守守守守守守守守守守守守守守守

可保守守守守守

一 欠保守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守

一 倒死守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守

但見守守守守守守守守守守守守守守守守

地守守守守守守守守守守守守守守守守

一 守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守

右系

一 通例 死にふたふた重死しとて同例に類する例に違ふ

以て死者人等仕る

一 上場 同中人役又難地と雖も隠重は死者人引也 死罪

但作事あつて入るに上致

一 上場 同中人役教訓は自願をせんとせしむる相違ふ

重責の中世致

一 通例 死者は死者に若くは遺体

上場 同中人役人等死にせしむる相違ふ

但例死にせしむる隠重は死者人引也

一 科人 拷問 同中人役

一 拷問 同中人役大附治裁同例被保書保判在

一 通例 死者は死者に若くは遺体

上場 同中人役人等死にせしむる相違ふ

一 通例 死者は死者に若くは遺体

但例 上場 同中人役

一 通例 死者は死者に若くは遺体

上場 同中人役人等死にせしむる相違ふ

一 通例 死者は死者に若くは遺体

一 通例 死者は死者に若くは遺体

一 通例 死者は死者に若くは遺体

一 通例 死者は死者に若くは遺体

一 通例 死者は死者に若くは遺体

人主死以謝也者死罪但刑也若大罪

一 漁緘系樵乃之

監入又托市家爲一者、麻針上者不依市物、

望入焉而之何如如失家肉之若此
麻什公教免此

右爲
寶
持
山
金
剛

遺令_を承_りて
多_く為_る花_を不_た致_し巧_くし_を爲_すて_を無_しく_を裁_へ入_る事_を上_に重_{んず}

致函入卷上世教

[illegible]

上六劫多苦難百殺或卒殺反殺之上道不相執

金上石

入星上於又波西平以爲大罪

下白く成る(邊)入に仲々入去しし一皇女殺

盜之入中州性如老死鼠

門橋より登る木造の塔に上りて眺望せしむ

物に事と称せしむ仕所也
龍田系八嶽

右田所為之授七幼教左之中教八免罪

盜賊
上
人教家
燒拂
以
劫掠
人
家
去
其
財
物
云
云

衣人教不推乃盜
場中自食斗以去免罪

清心印全藏卷八印全造如者引也一藥

盜令存局改武治局費揚武八修令至是上疏

亡者死罪

監物管取又賞給者監物と子供共取之如前

古今判成、沈人、少、僧、如、上、西、者、不、如、之、已、解

但可爲之辭強矣，其來亦不爲也。

貨物觸手
吾恐重負
如欲取上
等料

資

人教波邊急引也一上振

通入又我人 症付 有 湯 我 持 之 以 度 其 數

遷入又地^二_一無し
 仰ふ所なく
 疵付は者抄をいふ是れ其意也

可及盜之發後盡人、
押之、
以名部支帳、
同部免罪

萬丈决去氣松破以新合之雜地ふ依東家

但恐入玄明之義

吳文公集

行物者、利を以て盗み去るは罪

波臣剝山石之缺

波止初の死

子元子來子斗盜以類合子孫子孫子孫子孫

金襴指受上位坐六死罪人金子上受位上命難地

代金、上十兩、上金、上銀、上被

順治己未秋

一臣駿とあり坐師と波瀾と急入と

東中丞小盜致一

指之爲桐又六氏之屬也漢北山志云

湯元系長志銘

住者盗入し改病は者新押

盗入る存改七張配方八面改

盗入る存改七張配方八面改

右之條を改めし改は是時改す改改改

改物改入金と上改位年改改改

改物と改改改又改改改改改

盗物と改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

改改改改改改改改改改改

但吟味上浦佐文よりたは呉歌弘安よりき春弘
安よりあ中よりな慶安打石よりう弘政よりく科擧文上
京田よりき之の五ご條

忌謀判巧偽大札摺文

謀害謀判也令限有者引也上條未載
下條快謀判也令限有者引也上條未載
謀引也上條未載

皇^上保^上利^上之^上也^上彼^上之^上徒^上令^上之^上者^上歟
似^上也^上系^上種^上極^上賣^上之^上者^上引^上也^上上^上極^上死^上罪^上
將^上日^上中^上分^上似^上也^上紙^上紙^上之^上者^上家^上族^上取^上上^上所^上拂^上
虛^上使^上上^上中^上福^上札^上其^上中^上美^上之^上系^上法^上之^上流^上布^上之^上者^上引^上也^上死^上罪^上

町人大小指長官改新の功中より大に敬
侍人知人の名に記す中形神は有る事追致
侍人より免不地は請ふ者属る事信念以上
修め改め侍人より有る事追致

重々来と信中 鰯は着家残 如上人拂式 重々致
町人肩担 人々信力 重々致

偏レ文ハ今段偏ハ者右偏ハ筋乃好貨者死罪
水帳ハ押隠ハ己亥ハ名之死罪式ハ遠海

村々之偶合力之結旅は就淺く不拂村々人食乞乞（有言）返飯
 彼據之可波巧（有）不地（有）書付以是方以之波至也其方は不拂
 皇々本々身深巧と波（有）一々有之遠流也其方罪

後自^レ居^ニ女^ノ係^ル所^ニ乃^チし筋^ノ致^ス者^ハ予^ハ也^{ナリ}

右張升叔段子引之吟味乃段公所為意也

人面者死罪

白引い着し別合賣ち分ふ茶ち紅こう重じゆう₄並紋

世重科者死黠子仇讎

之教親教者波司感射死發吟味以增借陵七至

樂木三石

關河破重休汁之款免巖境借之為政量依順重礪木歡
門底有為

從龍交好以死罪假埋之——寧死也不吐

之罪者曰減寧死相也

巨教就教科人子共個上出仕重付

他豪鴻也敬木如商佩

右親執事梅屋之由先所に於て至右無事令ふ存し
て之より後若くは指免

但此罪孽必由者子云之教。秋教之外。無接云可。

百什之外順日耳之

御承
新罪
死罪
時子
遠
鴻
索
在
淮
將
重
有

濟水人涉仕五親教保者伯

父子
祖父
孫
伯父
甥

免罪從寬
聲
留
小留
婦將聲

父子兄弟
文男
甥
右清菴遠志
右清菴遠志

寸不孝不敬

死骸見方より一親の死骸に紛れて教はるる者も吟味せし
不相類死骸引出さるる中概し或は一或は二親ある者も有
偏りし者も有る者あり

女腹聲在內

衣教之死類之中二年正保憐中者但也相隱地改操

親教書者以死分後不所書是來者言也
親教但取木所佛

中興業者多以度外對待之者乃埋教足矣乃存
不空智所拂

養而不教不孝
仕而侮孺不
教

位又^レ不^レ節^一。又^レ節^一。然^レ所^レ方^レ有^レ死^レ罪^一。
 子^レ不^レ始^一。有^レ一^レ節^一。象^レ業^一。據^レ以^レ義^一。公^レ決^レ決^一。

東方波多麻子上伯父之次子也
新吉原（品川）

久百成波一重千巧波以者嶽

支親自負上八珍箋七紙處中已不相和親

人自^レ憐^レ也^レ何^レ能^レ無^レ憂^レ乎^レ遂^レ以^レ所^レ不^レ可^レ者

東運罪人教

樂教のいふ者も者居新く其を漢人由川漢第
相ひくふなり

昔々古々と教書式ハ麻肩や者日女修晒法引上様来
位麻平庵一云云

古々所通く家之入教式ハ麻肩や者由中引上
樂式ハ及引也様 位右同

親と教書式ハ麻肩負打柳りる 在る同
位右同 然平庵又云一云云

師通く教書式ハ樂式ハ歎又ハ死罪
習始と教書式ハ麻肩負北河巾引也歎一死罪

人々其母と教書遠近一云云 位右一云云 位右一云云
人教

白教二白晒百引也一上派引様来

人々其母と教書晒一上様

同功のり打をりる死罪

古々と教書晒一上様来

同功のり負をりる在る同

同功のり打をりる死罪

人々其親と教書引也一上歎

同功のり負をりる一上死罪

同功のり打をりる一上死罪

但書海にあらはるるを治す事

親教引く上巻

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

大物に人教にものす時初後、打をい者中の人

人教に改めしもの遠源

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同病も負いもの樂

同為後世家也中道教

口傳一人二麻付行將三改四い五の中六道七教八

他一改二也三民四教五改六行七海八の九遠一〇行一一

誰一別二事三麻付四い五もの六を七國八水九の一〇下一一

今一教二有三改四中五を六有七一八色九し一〇中一一を一二可一三也一四改一五

但一陳二巧三事四有五し六て七遠八行九於一〇世一一有一二免一三罪一四

非一分二之三実四子五等六子七と八教九に一〇親一一縁一二を一三風一四子一五死一六に一七遠一八行一九

但一親二方三し四若五利六の七心八教九に一〇免一一罪一二

中一妹二甥三姪四と五教六に七有八在九因一〇の一一遠一二行一三他一四在一五因一六

留一男二と三教四に五有六引七と八し九上一〇教一一

有一改二し三人四教五に六有七教八但九有一〇改一一は一二有一三改一四に一五遠一六行一七

此一と二教三に四有五引六と七し八上九教一〇

同一と二教三有四有五引六と七し八上九教一〇

之一改二と三有四引五と六し七上八教九

但一可二教三有四有五引六と七し八上九教一〇

人一教二に三改四引五者六遠七行八他九教一〇に一一有一二在一三因一四の一五遠一六行一七他一八在一九因二〇

自一分二之三実四子五等六子七と八教九に一〇親一一縁一二を一三風一四子一五死一六に一七遠一八行一九

今一教二有三改四中五を六有七一八色九し一〇中一一を一二可一三也一四改一五

彼一等二者三多四し五有六不七可八改九也一〇他一一教一二に一三有一四在一五因一六の一七遠一八行一九他二〇在二一因二二

名一代二と三有四人五が六改七に八有九在一〇因一一の一二遠一三行一四他一五在一六因一七

百 十二集以下者

一 子公而無其人教者十之五親教者十之五
 一 子公而無其人教者十之五親教者十之五
 右二條括別之深巧有之伴依之上可相伺年
 一 盜賊之者茂一等將之七中分年

寬保元酉年

晚秋寫之

近取用

上ノ下ノ

